

ダニエル・カールの

消防団 たずねあるき

第6回 宮城県仙台市

はじめに

今回の「消防団たずねあるき」は、宮城県仙台市にうかがいました。言わずと知れた東北随一の都市です。七夕や青葉城は言うに及ばず、最近の戦国武将ブームの中でも人気の高い伊達政宗でも有名ですね。

仙台市には7つの消防団があるそうですが、今回はその中で仙台市泉消防団にうかがいました。泉消防団のある泉区は、地下鉄の駅や高速道路のインターチェンジもあり、また近くにサッカーの仙台スタジアムもある、便利な仙台市内のベッドタウンです。

仙台には、オラも若い頃に山形からバイクで来たことがあって、親しみを感じる東北地方の大都会です。そんな仙台の消防団員の皆さんから今日はどんなお話が聞けるのか楽しみです。

仙台市泉消防団

ダニエル 仙台市泉消防団について教えてください。

赤間分団長 仙台市には7つの消防団があります。仙台市泉消防団は、かつては泉市消防団

だったのですが昭和63年に泉市が仙台市と合併したことにより現在の形になりました。

現在の実員は418人の団員がおり、平均年齢は43.5歳です。

ダニエル どんな職業の方が多くいますか。

赤間分団長 以前は自営業者が多かったのですが、今は十数パーセントでして、後は勤め人です。泉から他の地域に通勤している人もいますし職場が泉という人もいます。

ダニエル 主な活動内容について教えてください。

赤間分団長 火災があればもちろん出動しますし、春と秋、それから正月にポンプ車を使って防火広報をやります。また、毎年9月の第一日曜日に特別点検がありまして、全分団による訓練が行われます。

ダニエル 出初式はどのように行われますか？

赤間分団長 1月6日に仙台市全体の出初式が市役所前の市民広場で行われます。

ダニエル それは大迫力でしょうねえ。

伊藤団長 ええ、仙台には伝統の梯子乗りがあって、出初式では初乗りを披露いたします。

本郷班長 ぜひ仙台に来てごらんになってください。

消防団たずねあるき



左から本郷班長、伊藤団長、ダニエル、佐藤 泉消防署長、赤間分団長

ダニエル ありがとうございます。

こちらの消防団では、団員確保のためにどんな取り組みをしていますか。

赤間分団長 若い人に入団していただくように努力しています。全戸にあたって「入っていただけませんか」とお話します。また団員が職場の同僚や同級生に声をかけたりもしています。ひとりでは入りづらいようで何人かが入るといったケースが多いです。

ダニエル 口コミで募集をなさっているというわけですね。今年はどうですか？

赤間分団長 8月の県の操法大会に、泉消防団からは今年入団した18歳の団員が2名出ます。

ダニエル 18歳の団員さんは他の団員さんからすればかわいいというか、自分の息子みたいな感じなのではないですかね。でも、訓練などはある程度厳しくやらなければ、消防団じ

やないんでしょうね。

赤間分団長 はじめてで全然わからないですから、最初は基礎訓練をやって、徐々にスピードアップしていくと、だんだん本気になってきて、厳しく言われる方がよくなるんですよ。その方がおぼえるのも早いし自分の実力も見えてくるものです。

ダニエル スポーツ選手だったら、先生や先輩に厳しく言われるのに慣れてるから、かえって若い子の方がいいかもしれませんね。でも、何にもわかんないままに入るんだから大変だと思います。

赤間分団長 30歳以上の先輩と一緒にスタートで訓練するから、仲良くなっていいんじゃないですか。いい経験になると思います。

ダニエル ところで、泉消防団ではS-KYT研修を実施されたということですが、S-KYT研修を計画した経緯について教えてください。

消防団たずねあるき

赤間分団長 仙台市の消防団全体で S-KYT 研修があったんですよ。泉消防団も参加しまして、「これいいな」ということで、2年前から泉消防団でも独自にやろうということになりました。

ダニエル やってみてどうですか？

赤間分団長 最初は何をやるのか全然わかりませんでしたが、だんだんと理解が進んで行きました。講師の指導のもと6人くらいのグループにわかれて、消防活動を描いたイラストシートを見ながら、その活動にどんな危険が潜んでいるのかみんなで考えるんです。みんなで考えることでいろいろな違う意見が出ます。みんな意見を聞いてコミュニケーションする。それを話し合って結論を出すというわけです。

ダニエル 時間はどのくらいかかるのですか。

赤間分団長 3時間くらいの研修です。あとは指差し確認ですね。みんなで一緒にやります。たとえば車に乗るとき、「鍵ヨシ!」「前方ヨシ!」「発進ヨシ!」というふうに動作を口に出してそれから実際にやるんです。



ダニエル氏を囲んで

ダニエル それは何のための訓練ですか。

赤間分団長 自分の身を護るため、事故を起こさないための訓練です。

ダニエル 声に出すことによりあせらずにキチンと考えながらやっていく、そういう訓練なんですね。電車の車掌さんみたいなことでしょうかね。「右、左、確認ヨシ」と指差しながらやる、あれですね。

本郷班長 そうですね。自分で確認することによって、それが事故防止につながっていくのです。声を出すことで自分もまわりの人も確認できて事故が防げるわけです。

ダニエル はじめて訓練するとき、皆さん声を出すのを恥ずかしがりませんでしたか？

伊藤団長 多少、それはありましたね。でもみんなすぐに慣れました。

ダニエル でも火災などの災害時には声を掛けあうことが絶対に必要ですよ。

赤間分団長 そうですね。火災が起こるのは夜の場合もあり、煙が大量に出ている場合もあり、必ずしも見通しが良いとは限りませんからね。

ダニエル 団員さんは全部で418名いらっしゃいますけれども、全員が毎年参加できるのですか。人数的にはちょっと多いですよ。

赤間分団長 S-KYT研修を毎年全員が受講することはできませんけれど、受講した人が各所属に戻って教えるのです。今年はひとつの分団で S-KYT をやるということも出てきました。

ダニエル なるほど。講師はどなたがされるのですか。

消防署の団担当者 泉消防団の S-KYT 研修講師は、仙台市全体で実施したときと同じように、消防基金から派遣していただいています。

消防団たずねあるき

ダニエル そうでしたか。オラも S-KYT のことは勉強中なもので。S-KYT 研修の効果は、いかがだったんでしょうか。

赤間分団長 災害現場などでの直接の成果はまだはっきりとはわからないんですけども、研修受講の前後ではまるっきり団員の感覚が違いますね。団員同士がさらに仲良くなるし、大きな声で話ができるようになるし、たいへんいいことだと思います。研修ではじめて会った人とも研修の終わりには率直に話しができるようになりますね。

ダニエル コミュニケーションがよりスムーズにとれるようになって、おとなしい若い団員が先輩たちに遠慮せずに話し合えるようになるといいですね。

伊藤団長 毎日、みんなの体調が万全とは限りませんから、お互い声を掛け合ったりすることで「今日は体調が悪いんじゃないか」といったことがわかると思うんですね。

赤間分団長 S-KYT 研修の手法では、グループの中にひとりリーダーを決め、リーダーが団員のひとりひとりに「今日は顔色が悪いけれど調子はどうですか」などと聞くんです。聞かれた人は「タベ遅くまで仕事をしていまして」と答え、リーダーは「では今日は気をつけてください」などとやりとりするんです。

ダニエル 隠さずに、遠慮せずに、お互いに確かめながら活動するわけですね。体調が悪かったら事故につながって危ないですもんね。なるほどねえ。S-KYT では団員さんどうしのコミュニケーション術も含まれているんですね。

本郷班長 体調を確認しますから健康管理という視点も入ってますね。

ダニエル 高齢の方がいらっしやれば特に



S-KYT テキストを見ながら説明を受けるダニエル氏

注意をしないと…。

伊藤団長 泉消防団では、私が一番高齢なんです（笑）。

ダニエル こういう訓練をされた後でフランクなコミュニケーションができるようになって団員同士で仲良くできるんでしょうね。表面的なつきあいじゃなくて「本当に体調はいいんですか」とか、そこまで聞けるんですよ。いいですねえ。

ダニエル S-KYT を受講されてみて、やっぱりコミュニケーションがよくなりましたか。

本郷班長 最初は、何ていうか不安で、研修っていうんで、堅苦しいのかなあ、と思ったんですけど、中に入ってみるとわきあいあいと、楽しく受講できたのでよかったなあと思ってますね。

ダニエル 消防団員としての活動面で良くなったことはありますか。

本郷班長 自覚が出てきましたね。意識しなかったことでも「こういう危ないことがあったんだなあ」ということを再認識することでも

消防団たずねあるき

きました。S-KYTは危険をどうやって防ぐかということなんで、これを他の団員にも伝えます。今まで簡単にやってきたことにも危険が潜んでいることがわかりますし、話し合いをしてみんなで再認識できたということで、自分がこれから消防活動を続けていくためにも非常に勉強になりました、それを他の団員に伝えていければと思いました。

ダニエル 自分ひとりなら気づかないようなことでも、いろいろな人が見るから見方がちょっと変わっていろいろな事がわかるとか…。

本郷班長 そうですね。いろんな方向から見るので「結構、自分でもわからないところがあるなあ」ということを感じたことも本当にためになりました。

ダニエル 安全をいろいろな視点で見るようになるということですかね。

本郷班長 それは仕事にも役立ちます。私は建設業に携わっていますので仕事場にはいろいろな危険があります。実は、職場でもKYTをやるのですが、S-KYTを受講した事で「事故を防ぐためにはどうすればいいのか」ということがより良くわかり仕事の上でも役立つようになりましたね。

ダニエル S-KYT研修はなかなか効果的な研修なんですね。

赤間分団長 そうですね。しかも、座って講師のお話を聞くだけではなく、実技もありますから、単に研修を受けたというより何かをやったという達成感があります。



S-KYT研修状況

消防団たずねあるき

ダニエル 消防基金では、このS-KYTをはじめ、公務災害防止研修を積極的に進めているそうですので、どんどん開催してください。

「消防団たずねあるき」では消防基金の公務災害防止研修のお話をうかがうことがよくありますが、こちら仙台市泉消防団でもS-KYTが根付きつつあるようですね。

ここで、皆さんの入団のきっかけからいろいろとお聞きしたいと思います。

ダニエル 皆さんの消防団に入団したきっかけを教えてくださいませんか。

伊藤団長 私は昭和41年に入団しました。地域に貢献することは何かないかと考えていたとき、消防団がいいかなと思いました。入団当時は消防団の先輩たちが非常に大きく見えました。

入団して1週間ほどして近くで火災があったんですよ。まだ訓練も何にもしてなかったので、先輩に指示されても何をどうしたらいいかわからなくて、自分が不甲斐なくて…。

ダニエル それでも、今は団長さんとして消防団を引っ張ってらっしゃるわけですからね。

赤間分団長はいかがですか。

赤間分団長 私の場合は親が団員で、親の跡を受けて入団しました。ポンプの搬送を自動車で行い始めていた時期で、自分が免許を持っていたこともありました。自分で三代目、息子も入っていて四代目です。

ダニエル 消防一家ですね。オラの家と似てますね。

本郷班長はいかがですか。

本郷班長 私も親が消防団だったということがあります。あと、20代30代と青年会議所で活動していきまして、いろいろなボランティア活動をやっていたんですね。それで40で卒業したときに何か地域のためにできることはないかなと思ったときに近所の団員の方から消防団に入ってみないかと誘われて、自分も地域に貢献できるならと思ったのが入団したきっかけです。

ダニエル 消防団のどんなところに魅力を感じますか

伊藤団長 地域のみんと顔見知りになれることですかね。また仙台市内の他の消防団ともつながりができることもあります。

ダニエル 消防団員だと顔が広くなりますね。それは魅力的ですよ。女性にもモテますか？

本郷班長 モテますね（笑）。制服もカッコイイですしね、あと、消防署員の方々と一緒になって活躍できるのが魅力的なんですね。地域のためになるということが誇りですね。

ダニエル 消防団というのはとても力強いイメージがありますよね。そして、イザというときに出勤して地域のためにがんばっていますからね。もちろん女性消防団員の方も最近増えていますけど、男性的なイメージがあるんですよね、遅いっていうか。だからモテるんですよね。

本郷班長 そういうことにしておいてください（笑）。

赤間分団長 消防団のもうひとつの魅力として、いろいろな職業の人が集まっているということがありますね。私は専業農家だったので、他の職業の人のいろいろな話を聞くのが楽しかったですね。他の情報が入るっていうか…。

ダニエル 普通はどうしても同じ会社や同

消防団たずねあるき

じ業種の話になってしまいますよね。オラも山形で教員をしていたときはそうでした。だから当時、劇団に入って、農家の人、サラリーマン、漬物屋さんとか、いろんな職業の人と話をするのがとても面白かったです。

赤間分団長 たとえ県外に行って初めて会った人でも、互いが消防団員だとわかると話が弾みますよ。

ダニエル 全国どこに行っても仲間がいるということですね。うらやましいですね。

団長にうかがいますが、団長として、活動されている中でどんなご苦労がありますか。

伊藤団長 みんなよくやってくれるので苦労はないですね。ただ災害現場では事故や危険なことが起きることもあるので、それが心配です。

ダニエル 上に立つ立場の方はそれが心配

でしょうね。大きな災害は最近ありましたか。

伊藤団長 最近はないですね。ただ、宮城沖地震の再来の確率が高いものですから、それに対処できるようにみんな訓練していますよ。6月12日（注：取材日の翌日）も仙台市防災訓練で、宮城県沖地震が発生したという想定で訓練があるんですよ。

ダニエル これは年に1回の大きな訓練ですね。9月1日の防災の日は関東大震災があった日なのですが、6月12日というのは？

伊藤団長 32年前、昭和53年に宮城県沖大地震があった日です。

ダニエル オラは、昭和52年にはじめて日本に来て1年間留学してその頃はアメリカに帰っていて、その間に起きたんですね。話には聞いていますが…。どのくらいの規模の災害だっ



仙台市総合防災訓練の様子

消防団たずねあるき

たんですか。

本郷班長 マグニチュード7で、ビルや家屋が倒壊したり、結構大きかったですね。ブロック塀が倒れて死亡事故がありました。

赤間分団長 午後5時頃で、夕方だったけど、火事はあまり発生しませんでした。

ダニエル 関東大震災のときはちょうど昼飯の時間でみんな火を使っていたんで火災が起きたらしいですけど、夕方5時頃ならまだこれからだなんて感じだったんですかね。

本郷班長 火を使っていたけど消したという家庭が多かったですね。

ダニエル その頃にも「地震だ、火を消せ」という意識は強かったんですか。

伊藤団長 そういことだと思えます。

ダニエル 宮城県沖地震のような大きな災害には、消防団ばかりではなく全市で備えなければならぬですね。

赤間分団長 毎年6月12日の仙台市防災訓練は、市民が防災意識を高めて自分たちで活動する訓練なんですよ。それを消防団がサポートするかたちになるんです。

ダニエル まだまだ大きな地震が起きる可能性はありますからね。東北地方は毎年のように大きな地震が起きているからね。山形はあまり地震はこないんだけど、かえって心配ですね。訓練、がんばってください。みんなにいろいろと教えてあげてください。

地域の方の消防団に対する見方は、昔と比べて変化がありますか。

伊藤団長 宮城県沖大地震の時にも活躍していたので、みんな頼りにしてくれているんじゃないかと思えます。

ダニエル こちらの消防団で特筆すべきこ

とがあれば教えてください。宣伝したいこととか。

伊藤団長 現在は、8月の操法大会に向けて7名の選手ががんばっています。それで、ぜひ地域の方々にご支援をいただきたいと思っています。

赤間分団長 仙台の消防団の中でも泉消防団は、比較的平均年齢が若いんですよ。仙台市でも郊外に行くと年齢がぐっと高くなって、50代後半から60代の団員が現役でやっていたりするんですけど、こちらは20代、30代が結構いますから。

ダニエル それは、なぜなのでしょう。

赤間分団長 他の地域は地元人がいないんですよ。仙台市街に働きに出ている人が多く、通勤に時間をとられて消防団に入れない人が多いんだと思います。

本郷班長 それだけではなく泉消防団の魅力があるのではないんですかねえ。若い人が入りたいというか、あこがれるような。

ダニエル 魅力ある消防団づくりをしてらっしゃるわけですね。

赤間分団長 まだまだだとは思いますが、常にそういう意識は持っています。例えば、年に1回分団対抗のボーリング大会を行って、これには年齢を問わず多数の団員が積極的に参加して、大いに盛り上がります。

本郷班長 あと、泉地区は仙台市内のベッドタウンなんですね。つまり、ここに自宅がある人が多いので、みんな地域とのつながりが強いんですよ。消防団に入っても知ってる人がいっぱいいるということで団結力が強いんですね。

ダニエル 人口が増えているということもありますか？

消防団たずねあるき

本郷班長 そうですね。団地が造成されたり、地下鉄ができたりして仙台市街に通いやすくなりましたから。

ダニエル いずれにしても若い人が多いというのはいいですね。

どこの消防団にもそれぞれの魅力がありますね。そして、消防団員ひとりひとりがその魅力を作っているのでしょう。さて、最後に今後のことをうかがいます。

ダニエル 今後の抱負、目標などを教えてください。

伊藤団長 泉消防団では私が一番年上で、団長をしておりますが、これからは若い人の感覚で活動してほしいです。どんどん意見を聞かせて欲しいです。

ダニエル 若い力を活かしていくということですね。

赤間分団長はいかがですか。

赤間分団長 団員定員（430人）の充足です。

ダニエル 多くの消防団でご苦労されているようですががんばってください。

本郷班長はいかがですか。

本郷班長 いま、自然災害も多いし宮城県沖地震もいつ来るかわからないということで、市民の防災意識は高まっていて、そのなかで消防団員のあり方を問われていると思います。消防団員の意識をもっともっと高めて、それを市民にも伝えていきたいです。

ダニエル とても重要なことですね。

大きな訓練をひかえてらっしゃるのに、今日はいい話をいろいろ聞かせてもらって、ありがとうございました。

どこにお邪魔しても、消防団員の皆さんは硬い話と軟らかい話をおりませで自由自在に繰り広げてくれます。今日、初めてお会いしたのに、なんだか友達と話しているようなそんな気持ちになってしまいました。

地域密着

今回のお話からもいろいろと新しい発見がありました。

その中で仙台市泉消防団は地域との結びつきがとても強いということがありました。

「地域密着」この言葉は消防団を語る上では珍しいものではありません。でも、規模の小さい町ならともかく、大都市である仙台市でこの言葉をお聞きしたのは少々意外でした。

地域コミュニティの関係が希薄になることが地域の防災上の問題となりうるという話を聞いたことがあります。泉消防団は地域にしっかりと結びついて活動されているということで、まさしく地域防災の要と言えます。

おわりに

もともと消防団員の皆さんは他に職業を持っておられていて、しかも、この日は大きな防災訓練の直前であったにも関わらず、長時間熱心に消防団について話していただきました。本当にありがとうございました。

多くの人々が暮らす東北の大都市を守る仙台市泉消防団の皆さん、これからも地域の皆さんとの強いつながり的大事にしてがんばってください！